

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和8年4月14日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

学校名 荏原平塚学園

I ＜定着状況についての概要＞

- 2年：「知識・技能」「思考・判断・表現」において、全国平均及び区の平均を上回っている。
- 3年：「知識・技能」の領域においては、全国の平均を上回っている。「思考・判断・表現」の領域においては、区・全国の平均を上回っているが、「書くこと」の文章を書くことの問題については区・全国の平均を上回っているものの、目標値を下回っている。
- 4年：「思考・判断・表現」の領域においては、全国の平均を上回っている。しかし、区の平均は下回っている。「知識・技能」の領域については区・全国の平均を下回っている。
- 5年：「知識・技能」の領域においては、区・全国の平均を上回り、「思考・判断・表現」の領域についても区の平均を上回っている。しかし、「物語の内容を読み取る」問題においてのみ、区の平均を下回った。
- 6年：「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の領域において、区・全国の平均を上回っている。
- 7年：「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の観点において、区の平均を上回っている。しかし、「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」の領域、「漢字を読む」「説明的な文章の内容を読み取る」「文章を書く」の問題の内容の正答率は区の平均を下回っている。
- 8年：「知識・技能」では区の平均値を大きく上回っているが、「思考・判断・表現」等の活用を図る点において区の平均を下回っている。
- 9年：「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の観点において、区の平均を上回っている。しかし、「話すこと・聞くこと」の領域、「漢字を読む」「発表の内容を聞き取る」「文法・語句に関する事項」の問題の内容の正答率は区の平均を下回っている。

II ＜具体的な課題＞

- 2年：共通、相違など情報と情報との関係を理解すること。
- 3年：伝えなくてはいけないことを明確にし、構成を考えて文章を書くこと。
- 4年：文章の内容を正しく読み取り、必要な情報や要点を捉えること。理由や具体例を挙げて、自分の考えを分かりやすく文章で書くこと。語句の意味や使い方を理解し、語彙を豊かにすること。
- 5年：物語の内容から、登場人物の心情について叙述を基に読み取ったり、考えたことを表現できたりすること。
- 6年：文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使うこと。
- 7年：漢字を読む力、説明的な文章の構成を捉える力、目的に応じて情報を整理する力、自分の考えを書き表す力。
- 8年：説明的な文章を叙述に即して的確に読む力や、読み取った内容を基に自らの考えを表出する力。
- 9年：漢字の読解、基礎的な文法、情報を適切に聞き取り活用して自分の考えを伝える力。

III ＜課題の原因として考えられること＞

- 2年：比較の視点を意識して読む経験が不足している。
- 3年：文章を正確に読み取り、問われていることが何か正確にとらえる力が不足している。また相手に分かりやすく伝えるためには何がどんなことを伝えたとよいかという力が不足している。
- 4年：漢字やローマ字などの基礎的な知識・技能は概ね身に付いている。一方、文章を読んで必要な情報を整理し、目的に応じて読み取る力や、自分の考えを根拠を明確にして文章で表現する力に課題が見られる。また、語句の意味や使い方についての理解にも定着が十分でないことがうかがえる。
- 5年：登場人物の心情について叙述を基に読み取ったり、考えたことを表現したりする力が不足している。特に、自分の考えを表現するための語彙力が不足している。
- 6年：漢字の意味や読み方と関連付けて漢字の学習を行うことができていない。
- 7年：目的に応じて情報を把握する力や自分の考えを言語化する力が欠如していると考えられる。
- 8年：基本的な知識・技能は定着しているが、それらを活用する力が欠如していると考えられる。

9年：情報を整理・活用する力の欠如、基礎的な文法や漢字の読み書きの実践回数が少ないことが考えられる。

IV＜課題解決のための方策（取り組み指標）＞

2年：比較の視点を明確にした上で、自分の言葉で情報と情報の関係性を言語化していく練習を積み重ねていく。

3年：文章を読み解く力を付ける。文章を丁寧に読ませる力や何が問われているか、どんなことを聞かれているかなど理解する力を身に付けていく。また相手に分かりやすく伝えるためには単語だけではなく、必要な情報も入れなくてはいけないことを意識させる。

4年：文章を丁寧に読み、何が問われているのかを正確に捉える力を身に付けていく。また、自分の考えを相手に分かりやすく伝えるため、理由や具体例を入れて文章を書く機会を増やしていく。語彙力を高めるため、授業においても場面に応じて辞典等を活用し意味調べをしたり、新出漢字や既習漢字を作文や日記などで活用させたりして、語彙・漢字の定着を図っていく。

5年：登場人物の心情について、叙述を基に読み取らせていく。また、語彙力を高めていくために、授業においても頻繁に辞典等を活用し意味調べをしたり、新出漢字の学習の際は、語句調べをさせたりしていき、語彙力を豊かにしていく。

6年：漢字の意味や読み方に関連付けて漢字の習熟を行っていく。また、漢字の成り立ちにも着目させ、文脈に沿って漢字を適切に使えるようにしていく。

7年：授業内で文章を目的に応じて読解する能力の指導や自分の考えを書く活動を増やしていく。

8年：習得した知識・技能を活用する場面を意図的に設定することで、知識・技能を統合的な理解まで引き上げていく。

9年：漢字や文法問題の実践回数の増加、情報を活用する活動を増やすことで課題の解決を図る。

社会科

I＜定着状況についての概要＞

4年：「知識・技能」「思考・判断・表現」の領域においては、区・全国の平均点を5点以上回っている。

5年：「知識・技能」「思考・判断・表現」において、区の平均及び全国平均を上回っている。

6年：「知識・技能」の領域において、区の平均は下回っているが、全国の平均は上回っている。「思考・判断・表現」の領域において、区の平均及び全国平均を上回っている。

7年：「知識・理解」「思考・判断・表現」のすべての観点で目標値・区平均正答率・全国平均正答率を上回っている。

8年：「知識・理解」「思考・判断・表現」の領域において、区・全国の平均点を上回っている。

9年：「知識・理解」の観点では区平均正答率・全国平均正答率を上回っているが、「思考・判断・表現」の観点では下回っている。

II＜具体的な課題＞

4年：生産・販売の「店ではたらく人」の内容に課題が見られる。

5年：資料（地図やグラフなど）の読み取りに課題が見られる。

6年：資料を正しく読み取る力（特に、複数の情報を組み合わせて読み取る力）に課題が見られる。

7年：目標値・区平均正答率・全国平均正答率を下回っている項目はない。資料の読み取りの精度をあげていきたい。

8年：地理的分野では区・全国平均をすべて上回っているが、歴史的分野では、すべて下回っているため、歴史の内容に課題が見られる。

9年：「明治時代」に課題が見られる。

III＜課題の原因として考えられること＞

4年：基礎的な知識が、定着していない。また、グラフや文章等から情報を読み取れていない所がある。

5年：年表や資料から必要な情報を読み取り、その情報を文章化する力が不十分である。

- 6年：1つの資料だけを読み取る学習が中心となり、複数の資料を関連付けて考えられていない。
- 7年：基本的な知識の定着がなされていないこと、資料の読み取りの訓練がなされていないこと。
- 8年：反復練習の不足、また複数の資料を読み取り考察する部分に不十分なところがある。
- 9年：歴史的分野の基本的な知識の定着がなされていない。資料の読み取りの訓練がなされていない。

Ⅳ＜課題解決のための方策（取り組み指標）＞

- 4年：様々な動画や具体物を通して、概念的な情報を想像しやすくして基礎・基本の定着を図る。また、問題文をよく読み、教科書に載っているグラフや表を読み取る機会を増やして、読み取る力の向上を目指す。
- 5年：資料を読み取る際に注目すべきことを伝え、様々な資料を読み取る活動を取り入れる。さらに、資料から分かることについて文章化したり、他者に分かるように表現したりする機会を増やす。
- 6年：グラフや地図、年表など、多様な資料を組み合わせ読み取る学習を継続的に取り入れる。また、資料を根拠に説明する活動を充実させ、資料を活用して考える力を育成する。
- 7年：インプットとアウトプットの場を授業で取り入れる。また、小テストの実施などによって反復練習する機会を増やし、知識を定着させる。
- 8年：復習や小テストを行うことで、基礎的・基本的な内容の定着を図る。また資料を比較し正確に読み取る演習を実施していく。
- 9年：受験に向け資料に関する演習を入れながら、知識の定着をはかるために繰り返し学習をおこなっていく。

算数科・数学科

Ⅰ＜定着状況についての概要＞

- 2年：「知識・技能」「思考・判断・表現」において、全国平均及び区の平均を上回っている。
- 3年：「知識・技能」は、全国平均、区平均を上回っている。「思考・判断・表現」は全国平均を上回っているが、区平均は下回っている。
- 4年：「知識・技能」「思考・判断・表現」において、全国平均を上回っているが、どちらも区の平均を下回っている。
- 5年：「知識・技能」「思考・判断・表現」において、区の平均を上回っている。
- 6年：「知識・技能」「思考・判断・表現」の領域においては区・全国の平均を上回っている。
- 7年：「知識・技能」「思考・判断・表現」においてどの領域でも、区の平均及び全国の平均を上回っている。
- 8年：「知識・技能」「思考・判断・表現」において区の平均を下回っているが、全国平均正答率を上回っている。
- 9年：「知識・技能」は、全国平均は上回っているが、区平均は下回っている。「思考・判断・表現」は、全国、区平均ともに上回っている。

Ⅱ＜具体的な課題＞

- 2年：かたち、たし算の文章問題（異種の量）
- 3年：10000までの数・分数、繰り上がり・繰り下がりがあるたし算・ひき算、三角形と四角形
- 4年：かけ算・わり算、円と球・三角形の正答率が低い。図形の性質を理解し、活用することに課題が見られる。
- 5年：いろいろな形、面積、折れ線グラフと表の正答率が低い。
- 6年：数と計算とデータの活用の領域でやや低い正答率となった。
- 7年：単位量当たりの大きさについてと、いろいろなグラフの読み取りについての正答率が低い。
- 8年：正の数・負の数、平面図形の分野に課題が見られる。
- 9年：証明やデータ分析に課題がある。

Ⅲ＜課題の原因として考えられること＞

- 2年：たし算では、数量の意味を理解して立式していない。形では、見えない境界線をイメージする力の不足している。

- 3年：正確に計算する力が身に付いていない。文章問題を正しく読み取る力と数の性質の応用力が不十分である。
- 4年：問題文や図から必要な情報を読み取る力や、既習事項を活用して考える力が不十分である。図形の性質や数量の関係の理解が十分に定着していない。
- 5年：身近にあるおよその面積を推測することができない。平行四辺形の作図ができない。分度器や定規の使い方が不十分である。
- 6年：問題文や図形等の情報から必要な部分を読み取ることや、基準量と割合から比較量を求めることの理解が不十分である。
- 7年：小学校の時に習った単位量の考え方や、グラフについての知識の定着が不十分である。
- 8年：計算の内容や平面図形に関する基本的な知識の定着が出来ていない。
- 9年：図形問題に関して知識の定着が不十分である。また、データ分析においても知識の定着ができていない。

Ⅳ＜課題解決のための方策（取り組み指標）＞

- 2年：ブロックや絵図で数量関係を可視化する練習を重ねる。色板などの具体物を操作する活動時間を多く取る。
- 3年：たし算・ひき算は反復練習して、確実な習熟を図る。様々な文章題に取り組み、問題文の理解や既習事項の応用力を育てる。
- 4年：かけ算・わり算について、計算練習や文章問題に継続的に取り組み、数量の関係を捉えて立式する力を身に付けさせる。
円と球・三角形について、半径と直径の関係等の基本事項を確認し、図を用いて性質を説明したり、問題場面に活用したりする活動を充実させる。
- 5年：面積を求める問題において、立式することができるが計算を正しくすることができない。練習問題等を用いて様々な練習問題に取り組んでいく。必要があれば確かめ算で電卓を用いて確認を促す。作図の学習での分度器や三角定規、コンパス等の使い方をもう一度確認し、様々な図形を描く機会を設けていく。
- 6年：数と計算では練習問題等を用いて学習内容の確実な定着に取り組む。データの活用は資料を読み取り、それらを比べる活動などを通して、資料を活用する力を高める。
- 7年：式の計算や一次方程式などの文章問題などで単位量についてが出てきたとき、基本事項の確認をするとともに、データ領域での振り返りを充実させる。
- 8年：継続的に計算に関する基本の確認をする機会を設ける。各単元の導入で7年生の復習を丁寧に行うことで基礎を定着させる。
- 9年：前学年までの知識の定着が不十分であり、各単元でこれまでの振り返りを行う。

理科

Ⅰ＜定着状況についての概要＞

- 4年：「思考・判断・表現」は区・全国平均を上回っているが、「知識・技能」は区平均を下回っている。
- 5年：「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに区平均を上回っている。
- 6年：「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに区・全国の平均を上回っている。
- 7年：「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに区・全国平均を上回っている。
- 8年：「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに区・全国の平均を上回っている。
- 9年：「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに区・全国平均を上回っている。

Ⅱ＜具体的な課題＞

- 4年：虫眼鏡の使い方、磁石の性質、光の性質
- 5年：月と星、1年間の動物のようす
- 6年：天気の変化や水溶液の特徴についての理解

7年：動物のからだのつくりとはたらき、水溶液の性質

8年：気体の性質、物質の状態変化、光の性質

9年：動物のからだのつくりとはたらき

Ⅲ＜課題の原因として考えられること＞

4年：基礎的な知識が定着していないこと、実験や観察の結果から考察し、言語化して文章にすることが苦手であると考えられる。

5年：実験や観察などの実体験を伴った活動が少ない単元は、知識定着が低いと考えられる。

6年：実験や観察から得られる結果についての知識の定着が十分でない。

7年：観察・実験など実体験を伴った活動の不足。

8年：観察・実験など実体験を伴った活動の不足。

9年：消化酵素のはたらきについて整理・理解の不足

Ⅳ＜課題解決のための方策（取り組み指標）＞

4年：実験や観察を繰り返し行い、体験的に理解できる機会を増やし、確実に知識を身につけさせる。また、文章の型やキーワードを提示し、自分の考えを文章で表現できるよう支援する。

5年：生き物や植物単元でも実体を観察したり動画で見たりして、知識を確実に身に付けさせる。また、実験や観察の結果をしっかりと押さえる。

6年：実験や観察の復習を行い、基礎知識の定着を図る。

7年：自分の考えを持って実験や観察を行わせ、結果をもとに何が明らかになったのかを説明させる。

8年：観察・実験を通して、理科への関心・意欲を高めることで、自ら学ぶ姿勢を身につけさせる。

9年：実験を通して酵素のはたらきを理解し、体内ではたらく他の酵素についてさらに深められるようにまとめ・整理する。

英語科

Ⅰ＜定着状況についての概要＞

6年：「知識・技能」「思考・判断・表現」すべての観点において、区平均を上回っている。

7年：すべての項目で目標値を上回っているが、学習内容の活用及び「読むこと」の領域が区の平均を下回っている。

8年：「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点において全国平均の平均正答率を上回っている。

9年：「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点において全国平均の平均正答率を上回っている。

Ⅱ＜具体的な課題＞

6年：アルファベットの読み（聞く）、日常会話の理解（聞く）、単語の読み

7年：新出の英文を読む力、既習内容の応用力

8年：対話文や説明文などの長文読解

9年：場面に応じて書く英作文

Ⅲ＜課題の原因として考えられること＞

6年：一部定着度の低いアルファベットの読みがあり、聞き取れていない。スポーツを行う場所や楽しみ方の日常会話の表現の定着度が低く、聞き取りができていない。

7年：教科書本文以外で文章に触れる機会が少ない。文法の理解後に活用することができていない。

8年：長文を部分的に読み、先入観で問題に解答しているため、正確に本文の内容を読み取れていない。

9年：対話の意味や流れを理解し場面を把握する力が欠けている。

IV＜課題解決のための方策（取り組み指標）＞

6年：アルファベットの読みの練習やスポーツについての表現を練習する機会を増やしていく。

7年：授業内で新出の英文に触れる機会を増やしていく。

授業中に限らず英語に触れる場面を増やすことで学習内容を活用する機会をつくる。

8年：毎授業にて、導入の学習活動にて、読みトレ（長文読解教材）を活用し、長文を黙読した後、その長文を発音する。そして、その長文の内容についての問題に取り組む。教科書の長文を発音しながら、その内容の概要を読解し、長文の登場人物が伝えたいことを理解する。

9年：授業内の活動で、場面を想像しながら次にくる文章や自分の考えを表現する活動を取り入れる。